

令和6年度小平市立第二小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ4.8ポイント高く、都平均と比べると3ポイント高い。学習指導要領の内容ごとにみると、ほとんどの項目で平均を上回っている。その中で、「書くこと」に関しては、都平均を6ポイント上回っている。

課題

「書くこと」のうち、「心に残ったところとその理由をまとめて書く」の設問に関しては、11.1%の児童が無記入だった。授業でも「書くこと」に関して手が止まってしまう児童がいることから、苦手意識をもっている児童が多い。

学校で取り組む具体的な改善策

「書くこと」を重点的に指導していく。各単元において、初めにその単元の最終的な活動を明示し、学習活動の流れが分かりやすくなるようにする。また、全ての児童が意欲的に取り組めるように、ICT機器を活用したり、学習活動を工夫したりする。まずは、「書くこと」の苦手意識を取り除けるような指導の工夫を各クラスで展開していく。

【算数】

状況の分析

平均正答率は、全国平均と比べ3.6ポイント高く、都平均と比べると1ポイント低い。学習指導要領の内容ごとにみると、都平均と比べると、「変化と関係」は0.7ポイント上回っているが、他の項目は0.6ポイントから4.1ポイント下回っている。

課題

「速さ」と「グラフ」の問題の正答率が38.9%と他の項目に比べて低い。グラフの問題に関しては無回答も6.7%と最も高く、理解の定着が課題である。どちらも共通して記述式の問題であることから、表現をすることに課題があることが分かる。

学校で取り組む具体的な改善策

朝学習の時間や、3学期の学習内容である「算数の学習をしあげよう」で、小学校の総復習を行っていく。基礎的な語句の確認、基本的な公式、分数、小数の計算など、全範囲の復習を行う。基礎・基本的な問題を繰り返し解くことで定着を図り、理解を深めさせていく。また、友達と教え合ったり、デジタル機器を活用したりするなど、授業内容を工夫することで、児童が意欲的に学習できる環境を整えていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」が90.7%と善悪の区別がしっかりと身に付いていることが分かる。各教科の「授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしているか」また、将来の夢や目標をもつことや家庭で計画的に学習を進めることに関する設問への肯定的な回答が低かった。

学習の重要性は理解しながらも主体的に課題を見付けて家庭学習に取り組むことの数値が低いことが分かる。児童の実態として、物事に取り組む際に言われたことにはきちんと取り組めるが、教師の指示を待つといった傾向がある。それが学習や諸活動の中でも表れていると考えられる。

学校で取り組む具体的な改善策

家庭学習における漢字学習や計算学習を質・量ともに充実させ、理解の定着を図る。また、与えられた宿題だけに取り組ませるのではなく、復習・予習を含めた自主的な学習にも取り組ませる。自主的な学習を通して、自ら計画を立て、自身の苦手を補い、得意を伸ばしていくような主体的な態度を育てていく。また各教科の授業では、問題解決的な授業づくりを心がける。そして、問題に対する自分の考えをもち、友達と互いの考えを交流することで理解を深める「主体的・対話的で深い学び」を具現化できるよう指導改善を図り、学習内容を定着させられるようにする。